2023/ 4月開講

連続講座 「カメラの眼、人間の眼」 現代写真研究所特別企画

【英伸三のドキュメンタリー写真舞台】受講生募集

写真の見せ方、組み方、写真集の作り方

英伸三のドキュメンタリー写真舞台

写真を撮ることで、今まで気づかなかったものが見えたり、物事の本質を知る手がかりを得たりして、新しい世界が開けるのを感じるものです。撮影したものをプリントして写真として見ると、その場ではあまり重要と思わなかったものが、状況の中で大きな意味を持っていることに気づいたりします。写真を撮る行為には、事物に対する観察の目を鍛え、日常に変化をもたらして撮影者の気持ちを高揚させる力があると思います。時には未知のテーマに挑戦したくなり、冒険の旅に駆り立てられたりもします。

コロナ禍の拡大で私たちの行動は制限され、写真活動も思うにまかせない状態が続いています。しかし、こんな時だからこそ写真を撮る行為で創造の喜びを感じ、映像世界を探求することで事物に対する思考を活性化すれば、人生はより潤いのあるものになるのではないでしょうか。

今回の連続講座《ドキュメンタリー写真舞台（第４回）》、第２部は４月開講です。第１部に引き続き「カメラの眼・人間の眼」と題して《写真の見せ方、組み方、写真集の作り方》10回、９月の特別講義、名作鑑賞を入れ、全11回行います。

講義内容は、テーマの発想、撮影の進め方、見せるにあたっての写真のまとめ方、写真集の編集の仕方などを私の経験と実例で紹介するもので、月二回、連続二日行ないます。一日目は作例の写真を使った講義、二日目は前半に受講生の写真についてアドバイスを行ないます。撮った写真をたくさん持ってきてください。写真に何が写っているか、また狙ったものがしっかり写っているかを見極め、完成度の高い作品に仕上がるよう応援します。後半はJRPと現研所蔵の写真集、写真評論家の伊藤逸平氏から寄贈された〈逸平文庫〉、および私の手持ちの写真集から毎回一、二冊紹介し、写真家がなにを伝えているかを読み解きます。名作といわれる写真が発するメッセージを受けとめることによって、新たな写真世界が見えてくるはずです。

『上海放生橋故事』より「ドラム艦」上海市朱家角鎮 1992 年

「地引き網」青森県百石町 1981 年

特別講義

アメリカ映画「十二人の怒れる男」1957 年

シドニー・ルメット監督　96 分

2023/3/ 14㈫・9/12 ㈫

◇午後 5 時～ 6 時

ファースト・シーンとラスト・シーンの映像の持つ意味について

◇午後 6 時～ 7 時半　名作映画の鑑賞

12 人の陪審員が 17 歳の殺人容疑者の少年に無罪の評決に達するまでのディスカッション・ドラマ。最初 11 対 1 で少年は有罪に決まりかけたが、一人の陪審員 (ヘンリー・フォンダ）が無罪を主張、彼の粘り強い説得で、評決は二度、三度と繰り返され、ついに全員が無罪の評決を出すにいたる。ドラマは冷房の効かない陪審室一部屋でのディスカッションで進行するが、彼の論理的な主張が、陪審員一人一人の心を揺さぶり、 理性を目覚めさせていく過程はスリリングで説得力がある。監督のシドニー・ルメットは、バストショットを多用し陪審員一室という限定的空間で、人物の揺れ動く感情を劇的に映像化し豊かな映像表現を造出した。

長い時間をかけて評決を終え裁判所を出ると、夕立のあがったあとだった。番号だけでお互いの名前も知らない 12 人の陪審員が、さわやかな雨上がり握手を交わして別れていく、裁判所の広い階段のロング・ショットは感動的。

写真の見せ方、組み方、写真集の作り方

第1回　4月11日（火）18:00-20:30
組写真とはなにか。写真と写真の関連、衝突効果とは。作例でその面白さを追求する。

第2回　4月12日（水）14:00-17:00
受講生の写真にアドバイス。
必見写真集のレクチャ―は石橋寿子『北と東の人間録』

第3回　5月9日（火）18:00-20:30
写真構成の訓練。「視点」写真集に掲載された写真を使い、新たに組写真を構成する。

第4回　5月10日（水）14:00-17:00
受講生の写真にアドバイス。
必見写真集のレクチャ―はユージン・スミス、ジョン・スオーブ、三木淳『日本の敗戦』

第5回　6月13日（火）18:00-20:30
カラー写真では味わえない、モノクローム写真の力強さと美しさを、オリジナルプリントや写真集で鑑賞する。

第6回　6月14日（水）14:00-17:00
受講生の写真にアドバイス。
必見写真集レクチャーはエマニュエル・リヴァ『ＨＩＲＯＳＨＩＡＭＩ９５８』

第7回　7月11日（火）18:00-20:30
古い写真からその時代をよみがえらせる写真集の制作を、辻潤治『６×６判写真帳』岩田幸助『秋田ー昭和３０年前後』の実例で。

第8回　7月12日（水）14:00-17:00
受講生の写真にアドバイス。
必見写真集のレクチャーは桑原史成『水俣』

第9回　8月8日（火）18:00-20:30
写真を選び作品として構成していく力はなにから生まれるのか。先達の仕事からジャンルを超えて学び、奪う方法について考える。

第10回　8月9日（水）14:00-17:00
受講生の写真にアドバイス。
必見写真集のレクチャーは田沼武能『未来へ架ける世界の子ども』。

第11回　9月12日（火）　特別講義　（4P参照）

『子どもたちの四季』より「遊園地」東京都文京区 1977 年

P5・「地引き網」青森県百石町 1981 年
なぎの朝、東の空が白みかけるころ、沖に船を出して網を敷き、船頭の合図とともに長い引き網に腰あてのついたロープをからげ、みんなでゆっくり網を引く。この日はセグロイワシが大漁だった。
P6・『子どもたちの四季』より「遊園地」東京都文京区 1977 年
遊園地に特設された世界怪奇館の出口で、出てこない友だちを待っている少年。場内から恐怖の叫び声がスピーカーから流れるたびに、体をぴくりとさせた。
P7・『老街茶館』より「老街の朝」中国浙江省烏鎮 1999 年
早朝から道の両側にもの売りが並ぶ古鎮の通り。店の前の大鍋から湯気をあげているのは烏鎮名物、羊肉の固まりのうま煮。足をワラで縛られた 2 羽のアヒルは、自転車の持ち主が茶館でお茶を楽しんでいる間、路上で待っている。

『老街茶館』より「老街の朝」中国浙江省烏鎮 1999 年

『農れんれん』より「大根のしっぽ切り」鹿児島県頴娃町 1996 年

講座への参加資格の制限は特にありません。写真に興味をお持ちの方なら、写真をあまり撮ったことがなくても結構です。写真の世界に触れることでなにかが変わります。また、写真展の開催や写真集の発行を計画しているベテランの方も、新たな発想を得てさらにレベルアップさせるためにおいでください。

2 日目は昼間の午後 2 時から 5 時までです。遠距離から受講される方は前日 1 泊で帰ることが可能です。空いた時間を都内の撮影にあてるなどしてぜひご参加ください。

英伸三略歴

1936 年千葉市生まれ。東京綜合写真専門学校卒。日本写真家協会会員。JRP 代表理事。現代写真研究所所長。農村問題などを通じて日本社会の姿を追い続けた。1992 年から中国上海と江南一帯の明、清時代の面影を残す古鎮を訪ね、近代化政策によって姿を変えて行くまちのたたずまいと人々の暮らしぶりを記録している。

英伸三主要写真集

〈農業・農村〉『農村からの証言』『日本の農村に何が起こったか』『偏東風に吹かれた村』『里と農の記憶』『鹿児島発　農れんれん』。構成のみ『ため池のある風景』2 冊

〈社会・労働〉『一所懸命の時代』『町工場　鋼彩百景』

〈教育〉『1700 人の交響詩－横須賀市立池上中学校の教育記録』『潮風の季節―和光中学校の教育記録』『子どもは光る－川口市立仲町小学校の教育記録』写真絵本『みず』『じめん』『こいのぼり』『どろんこ』

〈風景・自然〉『新富嶽百景』『山菜手帳』『桜狩り昭和篇』

〈街〉『浅草初春事始め』

〈地方〉『酒は風』『モンローの皺』

〈祭り・演芸〉『唐津くんち えんや』『英伸三が撮ったふるさときゃらばん』『祭・みゅーじかる』

〈中国〉『上海放生橋故事』『上海天空下』

ほかに写真展『老街茶館』『老街旧隣』『文革の残影』。そのほか「アサヒカメラ」組写真の部審査（2016、2017 年度）、フォトコンテスト」自由作品の部審査（2019 年度）を担当。

受賞

日本写真批評家協会新人賞（個展「盲人―その閉ざされた社会」と「アサヒカメラ」の『農村電子工業』で）、日本ジャーナリスト会議奨励賞（写真集『農村からの証言』で）、第 7 回伊奈信男賞（写真展　桑原史成・英伸三『ドキュメント二人展』で）、ボローニャ国際図書展グラフィック賞（写真絵本『みず』）など。

授業場所：現代写真研究所 6 階教室

定員：15名

受講料：49，500円（税込）

申し込み：

当校ホームページ申込みフォームよりお送りください。

申込フォーム

お申込み・お問合せ

現代写真研究所 事務局

〒 160-0004　東京都新宿区四谷 3-12 沢登ビル 5.6F　TEL 03-3359-7611　FAX 03-3355-1462

email：jimukyoku@genken.ac　URL：https://www.genken.ac/

twitter：GENKEN_PHOTO ／ instagram：photo_genken ／ youtube 公開講座等配信中

当校ホームページ